

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4170500146		
法人名	有限会社ティーム		
事業所名	グループホームひなたぼっこ		
所在地	佐賀県伊万里市黒川町大黒川1393番地16		
自己評価作成日	令和3年8月2日	評価結果市町村受理日	令和4年1月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人 佐賀県社会福祉士会		
所在地	佐賀県佐賀市八戸溝一丁目15番3号		
訪問調査日	令和3年8月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>* コロナ禍における感染予防の為、リモートを活用した研修や会議に取り組んでいる。また、家族とのやり取りも積極的にテレビ電話等を活用している。</p> <p>* 法改定によりBCP(業務継続計画)委員会を設置し、各部会にて頻回に協議している。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>緑豊かな山々に囲まれ、田園風景が広がる自然豊かな環境に佇むホームである。近くには小学校があり、校庭で遊ぶ子供たちのにぎやかな声が聞こえる。建物は洋風の2階建てで、オレンジとネイビーの屋根がひときわ目を引く。広い中庭と藤棚があり、天気の良い日には、時折お茶会が開催されている。長く安定した運営がなされており、職員の定着率も高い。コロナ禍であっても、施設の中で楽しく過ごせるよう、個々の職員が知恵を出し合い、中庭でのビアガーデンやバーベキューの開催、手作りのグランドゴルフ、おやつ作り等、入居者が生き生きと生活できるような工夫がなされている。ホームについて、「一人の人間として人が求められる場所」と話す職員が多く、個人を尊重し、互いに支えあい役割のある生活を送れるよう支援する姿勢が根付いている。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
	ユニット名	ユニット名		ユニット名	ユニット名
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	○	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	○
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	○	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	○
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	○	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	○
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	○	66 職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○	○
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	○	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	○
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	○	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	○
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	○			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(A棟)	自己評価(B棟)	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	信念の詩を職員が常に目に着くところに掲げている。	信念の詩を職員が常に目に着くところに(玄関)に掲げている。	ミーティングや実践を通して理念について振り返る機会があり、理念を共有し実践に繋げる取り組みが日常的になされている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナ感染予防につき、行事等が、中止となり交流できなかった。	コロナ禍において各種行事が中止となり、交流ができなかった。	長く地域に根付いたホームである。現在はコロナ禍のため、これまで育んだ地域との繋がりが途切れないう、電話やオンライン、SNSでの交流等、工夫に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍において地域の方々との交流を控えている。	コロナ禍において地域の方々との交流を控えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍にあり感染予防を考慮し、コミュニティセンターにて開催した、BCPの説明を行い協力体制の依頼をし意見や感想をいただいた。	コロナ禍にあり感染予防を考慮し、5月は黒川町コミュニティセンターで開催し、7月はリモート会議を行った。今後もリモート会議を検討している。	オンラインを活用し、リモート参加を併用した会議を開催している。会議の雰囲気はよく、活発な意見交換が行われ、地域の情報を得る場として活用している。出された意見はサービス向上に活かすよう努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	初めての新型コロナウィルスワクチン接種を受けるに当たり説明会に参加し、接種までに何度も電話連絡を行った。	新型コロナウィルスワクチン接種に当たり説明会に参加し、実施に至るまで電話連絡等を行った。また運営推進会議を通して事業所の現状やケアへの取り組みを報告し助言を頂いている。	市の担当部署とは顔の見える関係性で、日頃からよく相談している。市から入居に関し相談を受けることもあり、互いに協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	委員会により見直しを行っている。現在は該当者はいない。	身体拘束委員を中心に勉強会を行いながら、随時見直しを行い、拘束をしないケアを目指しているが、危険性の高い方には家族の同意を得て安全ベルトや四点柵を使用している。	安全上やむを得ず身体拘束を行う場合は、毎月モニタリングを行い身体拘束適正化委員会で協議し、段階的な解除に向けた取り組みを行っている。身体拘束に関するマニュアルや同意書等の書類、議事録の整備もなされている。	玄関の施錠を含め、身体拘束に頼らないケアに取り組む意識を全職員で共有しながら、解除に向けた取り組みの継続が望まれる。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	言葉遣いなど配慮し、職員同士注意し合いながら意識を高めている。	言葉遣いなど配慮しながら、虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価(A棟)	自己評価(B棟)	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を必要な方があれば活用できるよう、勉強会をしている。	成年後見制度を必要な方があれば活用できるよう、勉強会をしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書、契約書をもとに説明を行っている。	重要事項説明書、契約書をもとに説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ケアプラン説明時に意見収集の用紙を送付し、意見を聞ける機会を作っている。ご意見箱を設置したり、面会や家族への連絡時にお尋ねし、反映させている。	ケアプラン作成時に、電話・LINEにて意見を伺っている。また、玄関にご意見箱を設置したり、面会や家族への連絡時にお尋ねし、反映させている。	電話での状況報告を随時行っている他、オンラインを活用した面会を開始する等、家族の意見を運営に反映できるよう努めている。家族とも良好な関係を築いている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員間で出された意見は、会議や朝のミーティングで話し合い、ホーム長が会議等で社長に報告し、意見交換を行っている。	職員間で出された意見は、会議や朝の申し送り時に話し合い、社長に報告し、意見交換を行っている。	職員同士の信頼関係を大切にし、課題についてはすぐに話し合い、職員が共通認識を持ってケアが出来るよう工夫している。報告・連絡・相談を確実に出来るよう、管理者は話しやすい雰囲気づくりに努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の状況を把握し、個人的な評価や待遇に努めている。職員への福利厚生に努めている。	職員個々の状況を把握し、個人的な評価や待遇に努めている。職員への福利厚生に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員個々の状況を把握し、研修、勉強会の機会や個人的な成長の機会を提供している。	職員個々の状況を把握し、研修、勉強会の機会や個人的な成長の機会を提供している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍で人との交流が図り辛い状況であり、現状に必要な研修会に参加し、情報はズームにて得ながら取り組んだ。	コロナ禍で人との交流が図り辛い状況であり、現状に必要な研修会に参加し(リモート研修を活用)、最新の情報を得ながら取り組んでいった。		

自己	外部	項目	自己評価(A棟)	自己評価(B棟)	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスを導入する前にご本人とのコミュニケーションを図り、本人の意向を尋ねながら安心を確保できるよう努めている。	サービスを導入する前にご本人とのコミュニケーションを図り、本人の意向を尋ねながら安心を確保できるよう努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスを導入する前に御家族との話し合いを持ち、希望される事に耳を傾けることで関係づくりができるよう努めている。	サービスを導入する前にご家族との話し合いを持ち、希望されることに耳を傾けることで関係づくりができるよう努めている。コロナ禍で遠方の家族が来れない時はテレビ電話を活用している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスを導入する前にミーティングを行い、入居前の面接の情報をふまえ、まず、その時必要な支援を見極められるよう話し合っている。	サービスを導入する前にミーティングを行い、入居前の面接の情報をふまえ、まず、その時必要な支援を見極められるよう話し合っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る方には、家事や庭いじり等役割を担ってもらい、協力して暮らしている。	出来る方には、家事などの役割を担ってもらい、共に助け合い、協力して暮らしていける関係作りに心がけている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族と共にご本人を支えていけるよう仲介を行ったり、健康状態の報告を密に行っている。コロナ禍でありテレビ電話や窓越しの面会が主流になっている。	家族と連絡を取り、共に支援していく関係を築いている。コロナ禍であり電話やテレビ電話、ラインなどを活用している。面会は状況に応じ、玄関でのシールド越または窓越し対応で協力を頂いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍にあり、外部とのふれあいがもてなかったが馴染みの場所へドライブや散歩が出来た。	コロナ禍にあり、外部の方との接触は控えている。三密にならない場所へのドライブや車内からのお花見等を行った。	コロナ禍のため全員で外出する機会は減ったが、少人数で馴染みの場所等へのドライブ行っている。また、家族の協力を得ながら手紙等での交流を支援し、関係が途切れないよう努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	中庭でのピアガーデンを行って入居者さん同士、入居者と職員の交流を深めたり、レクリエーションを通じての交流が図れるよう努めている。また他の棟への訪問や来訪支援により関係づくりに輪を広げている。	毎日のレクリエーションや家事作業を通して、お互いに気遣い合い交流されている様子が見受けられる。また他の棟への訪問や来訪支援により関係づくりに輪を広げている。		

自己	外部	項目	自己評価(A棟)	自己評価(B棟)	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院された時には、ご家族へは経過報告や洗濯の代行を行っている。	コロナ禍で入院時の面会は出来ない状況だが、洗濯の代行を行ったり、入院時の状況の情報を得て、ご家族との連絡は密に行うよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	出来る限りご本人が希望される暮らしができるよう、お一人おひとりの思いを把握できるよう努めている。	家族からの情報や本人との会話などの中から意向を確認し、希望に添えるよう努めている。主治医以外の診察継続を希望される方への対応を行っている。	表情や仕草から気持ちをくみ取る他、入居者の状態に合わせ、紙やペン、鈴等の道具を用いながら本人が意思表示が出来るよう工夫し、思いや意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の調査により出来る限りの把握に努めている。入居後もご家族の面会時にお話を伺ったり、ご本人と意思を話したりして情報収集に努めている。	入居前の調査により出来る限りの把握に努めている。入居後も御家族の面会時にお話を伺ったり、ご本人と意思を話したりして情報収集に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	お一人おひとりの心身状態を把握し、無理のない生活が出来るようバイタルや、表情に気を配っている。	毎日バイタルチェックを行い、その日の健康状態を把握し、体調に応じてその日の過ごし方や作業内容の工夫を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3ヶ月に一度のモニタリングを行い、ご本人がより良く暮らして頂けるようにチームで話し合っている。また、ご本人のニーズに応じて出来る限りの対応が出来るよう、関係者との連携を図っている。	3ヶ月に一度のモニタリングを行い、ご本人がより良く暮らして頂けるようにチームで話し合っている。また、ご本人や、ご家族の意見も伺っている。	原則3ヶ月に1回、介護計画を更新し、現状に即したプランとなるよう努めている。しかし、担当者会議に本人や家族の参加が少なく、家族との話し合いに不足が見られる。	介護計画について家族と話し合う場の調整が望まれると共に、本人・家族の意見を反映しやすい仕組み作りに期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録を詳細に行い、情報を共有すると共に状態の変化に即した介護計画を作成している。	随時、介護記録を行い情報を共有しながら、介護計画の見直しや実践に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	コロナ禍で帰宅や面会も思いのままに出来ない状態であるため、ストレスを溜めこまないように支援を行っている。	コロナ禍で自宅や外出等は中止にせざるを得ない状況だった。本人の必要に応じて、auショップに同行した。		

自己	外部	項目	自己評価(A棟)	自己評価(B棟)	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍に於いて地域資源の活用はほぼ出来なかった。	コロナ禍において地域資源を活用するのは難しかった。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望を大切に、希望される医療機関を受診できるように支援している。	本人や家族の希望を大切に、希望される医療機関を受診できるように支援している。	本人や家族が希望するかかりつけ医を選択することが可能であり、歯科や眼科等、専門医の往診も行われ、適切な医療が受けられるよう体制が整備されている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	状態等の変化があれば素早く看護職に伝え、適切な受診や看護が受けられるよう支援している。	状態等の変化があれば素早く看護職に伝え、適切な受診や看護が受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	主治医や看護師長に報告、相談を行うと共にソーシャルワーカーとの連携も密に行っている。	主治医や看護師長に報告、相談を行うと共にソーシャルワーカーとの連携も密に行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期に向けた方針を伝え、ホームで出来る事を確認しながら、医療機関との連携を図りつつ支援している。	重度化や終末に向けた方針を伝え、ホームで出来る事を確認しながら、医療機関との連携を図りつつ支援している。	入居時や状態変化時等に看取りについて説明し、希望があればホームでの看取りを行っている。ホームで出来る事と出来ない事を家族と話し合いながら、本人・家族の意向に沿い、チームでの支援に努めている。また、職員に対し、看取りに関する研修を年2回行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	月に1度の防災訓練時に、急変時の対応法、応急手当等の勉強会を行い緊急時に備えている。	月に1度の防災訓練時に、急変時の対応法、応急手当等の勉強会を行い緊急時に備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災、地震、災害の避難訓練を2回以上行っている。また、消防署の指導も受けている。BCP委員会を設置しこまめな話し合いを持っている。8月3日に水害時対応の垂直避難を実施した。	非常時用の備蓄をしている。年2回の避難訓練を実施し、消防署の指導も受けている。8月3日に水害時対応の垂直避難を実施した。BCP委員会を設置しこまめな話し合いを持っている。	年2回、火災避難訓練を実施している他、地震への対策としてガラスの飛散防止フィルムの施行、家具の転倒防止も行っている。業務継続計画(BCP)の作成と、これに則った準備に着手している。水や食糧の備蓄の他、蓄電池も備えられている。	

自己	外部	項目	自己評価(A棟)	自己評価(B棟)	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	お一人お一人を人生の先輩として敬い、人格者として尊重した言葉かけや、対応を心がけている。	一人ひとりを人生の先輩として敬い、人格者として尊重した言葉かけや、対応を心がけて取り組んでいる。	入居者個々人の生活歴を考慮し、本人にとって心地よい関わり方になるよう、全職員が心掛けている。個人情報の管理も適切になされている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	今日したい事、今したい事をお尋ねし出来る限り対応できるよう努めている。また、個々人が持つ思いや、希望が表現できるようお声かけている。	今日したいこと、今したいことをお尋ねし出来る限り対応できるよう努めている。また、個人個人が持つ思いや、希望が表出できるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来る限りお年寄りのペースに合わせて、お一人おひとりに応じた食事の時間や、希望に即した入浴が提供できるよう支援している。	出来る限りお年寄りのペースに合わせて、一人ひとりに応じた食事の時間や、希望に即した入浴が提供できるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	カットや髪染め希望のある方には、その都度対応している。髭剃りを嫌がられる方には、工夫を凝らして身だしなみの支援をしている。	起床時に洗面できない方はおしぼりを提供したり、整髪し身だしなみができるよう、一人ひとりに応じた支援をしている。また、理容師によるヘアカットやカラーを受けている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員も入居者の方と一緒に、会話をしながら食事をしている。入居者の方も各人の力に合わせ、共に片づけを行っている。	職員も入居者の方といっしょに会話をしながら食事をしている。入居者の方も各人の力に合わせ、積極的に共に片づけを行っている。	日頃から、おやつ作りや行事食、中庭でのお茶会、ビアガーデン等、食事が楽しくなる工夫に努めている。また、味見や食器の片づけを入居者と共に行い、食べる事への意識付けもなされている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	各人の食事の適量を把握し、身体状態に応じた食事形態で提供している。栄養改善のための栄養ドリンク、サプリを飲用して頂いている、好き嫌いの激しい方には、代替えを提供している。	各人の食事の適量を把握し、身体状態に応じた食事形態で提供している。また、栄養改善のための高カロリー食、サプリを摂取して頂いている。代替えなども提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、各人に力に応じた口腔ケアをおこない、必要な方には歯ブラシだけでなく歯間ブラシを使用したり、コンクールを滴下した水でうがいをしている。毎日ポリデント使用。	毎食後、各人の力に応じた口腔ケアを行い、必要な方には歯ブラシだけでなく歯間ブラシを使用したり、コンクールを滴下した水でうがいをしている。毎日ポリデント使用。		

自己	外部	項目	自己評価(A棟)	自己評価(B棟)	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンをつかみながらトイレ案内を行い、自立できるよう支援している。	排泄パターンをつかみながらトイレ案内を行ない、自立できるよう支援している	羞恥心に配慮したケアに努め、排泄チェック表を活用する他、感情の変化による排泄パターンにも着目し、出来るだけトイレでの排泄が出来るよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給に心掛け、ヤクルトやヨーグルト、オリゴ糖を取り入れたり、誤嚥しやすい方には個々の好みの飲み物を寒天等でとろみを付け提供している。また、運動を行い便秘予防に努めている。	水分補給に心掛け、ヤクルトやヨーグルト、オリゴ糖等を提供している。また、必要に応じて便秘薬を提供している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人の希望や、本人の気分に配慮し、個々に沿った入浴ができるよう支援している。	本人の状況に合わせて、入浴・シャワー浴・足浴などを行い清潔保持に努めている。	週2日から3日の入浴を基本とし、本人が心地よく入浴できるよう、声掛けや入浴のタイミングを工夫している。入浴出来ない時でも清潔に過ごせるよう清拭等の対応に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調を見ながら午睡を促している。エアコンで温度調節を図っている。	体調を見ながら午睡を促している。エアコンで温度調節を図っている。本人要望時はホッカイロを提供している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋を基に確認したり、症状の変化に伴う薬の変化についてもその都度確認している。	処方箋を基に確認したり、症状の変化に伴う薬の変化についてもその都度確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	将棋、カラオケ、パズル等を楽しみにされている方もあり、支援している。	食器の片付けや洗濯物たたみ等に役割を持つことで、やりがいを持って取り組まれている。会話や歌・おやつ作り等を楽しみ気分転換をされている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍で人との接触は避け、中庭やホーム周辺の散歩やドライブを行っている。	コロナ禍で人との接触を避け、中庭やホーム周辺の散歩やドライブを行っている。	広い敷地内やホーム周辺の散歩を日常的に行い、本人の希望に沿って戸外へ出かけられるよう支援に努めている。遠方へのドライブも、感染症対策を行い、少人数で実施している。	

自己	外部	項目	自己評価(A棟)	自己評価(B棟)	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	各人の力や希望に応じた買い物ができるよう支援している。	各人の状態や希望に応じて買い物が出来るよう支援しているが、現状はコロナ禍において、買い物には行かなかった。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	ご家族の了承を得ながら、電話を希望される時には直ぐに対応している。テレビ電話の活用も行った。	希望があるときは電話やテレビ電話をかけて頂いている。電話の取次や手紙のやり取り等、必要な時に応じて仲介を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	適切な温度や湿度に配慮したり、換気にも心掛け、空気清浄機も使用している。	随時、室温と湿度の管理を行い、季節の花や置物で季節感を取り入れるよう工夫している。換気にも心掛け、空気清浄機や除菌器を使用している。	屋内は明るく、清潔に保たれている。定期的な消毒と換気その他、空気清浄機や除菌装置を活用し、温湿度にも配慮する等、安心で安全な生活環境作りに努めている。職員は声の大きさや足音にも配慮し、季節の花を飾る等、居心地のよい共用空間づくりがなされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間にソファや椅子を置き、思い思いの場所ですごしていただけるよう配慮している。	共用空間にソファやリクライニング椅子を置き、思い思いの場所で過ごしていただけるよう配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に、出来る限りご本人の馴染みの物を持ってきていただくようお願いしている。	持ち込みは自由で、本人の居心地のよい居室づくりに努めている。	使い慣れた家具やこだわりの物を持ち込み、住み慣れた部屋となるよう個性あふれる居室づくりがなされている。家具の配置は安全に配慮しながら本人や家族と相談し、決めている。各居室にはわかりやすい表示がなされ、入居者が混乱しないよう配慮されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや浴室に表示をし、出来る限りご自分で動けるよう配慮している。また、台所や洗面所などの見える範囲に危険な物を置かないよう安全に配慮している。	トイレに表示をし、出来る限りご自分で動けるよう配慮している。また、台所や洗面所などの見える範囲に危険な物を置かないよう安全に配慮している。		